

世界最大の原発が地震に襲われた！ ～原発を問い直す映画と講演の集い～

自然と人間社



13:00 映画「東京原発」上映

「東京に原発を誘致する！」突如飛び出した都知事の爆弾発言に都庁はパニックに陥った。

15:00 山崎久隆さん (たんぼぼ舎)

講演「地震が柏崎刈羽原発にもたらしたもの」
柏崎刈羽原発で明らかになった新事実を報告。

7月16日に発生した中越沖地震は、世界最大の原発「柏崎刈羽原発」(写真左)に深刻な被害をもたらした。

東京電力が知っている事実を小出しにしているため、全容は明らかにならないが、それでも、このまま日本の原発を動かし続けていいのかという不安は高まるばかりだ。

これまで発表された被害報告は、どれも重大なものばかりだ。

原子炉建屋に隣接する変圧器が火災・炎上。放射能を含んだ水が海にも漏れ出る。ヨウ素(燃料棒のウランが核分裂してできる)を含むガスが大気中に漏れ出る。原子炉圧力容器の水が建屋にあふれ出る。原子炉の上部にある天井クレーン部が破損する。固体廃棄物貯庫のドラム缶400本が倒れ、うち数十本のフタが外れ内容物が漏れ出る。事務棟の天井の落下……。

地震被害は8月1日現在で1,263件を数え、マスコミは「想定外、浮き彫り」と一斉に報じた。「想定外」とは、早い話が、日本の原子力発電は強い地震に耐えられるように造られていないということだ。

柏崎刈羽原発3号機では2,058ガル(ガルは加速度の単位で、地震の大きさを示す)に達し、設計上想定していた最大値834ガルを倍以上も上回った。

むしろ、これくらいの被害で済んだことは幸運でチェルノブイリのような大事故が起こった可能性さえあったといわれる。

原発が立地された区域では大きな地震は起こらない、たとえ起きても建物は十分耐えられる、と言ってきた電力会社の説明はウソだったのだ。今こそ、原発行政を見直すときだ。



月刊『自然と人間』